

地域包括ケアシステム 事例集

～ いつまでも住み慣れた地域で暮らし続けるために ～



西条市 介護保険課

改訂履歴

版数	発行日	改訂履歴
第1版	令和5年4月1日	初版発行
第2版	令和7年3月1日	修正…「はじめに」、「1 主な相談先」 追加…「2 事例集」に(11)～(15)を追加 削除…「3 その他の取組」、「4 おわりに」

はじめに

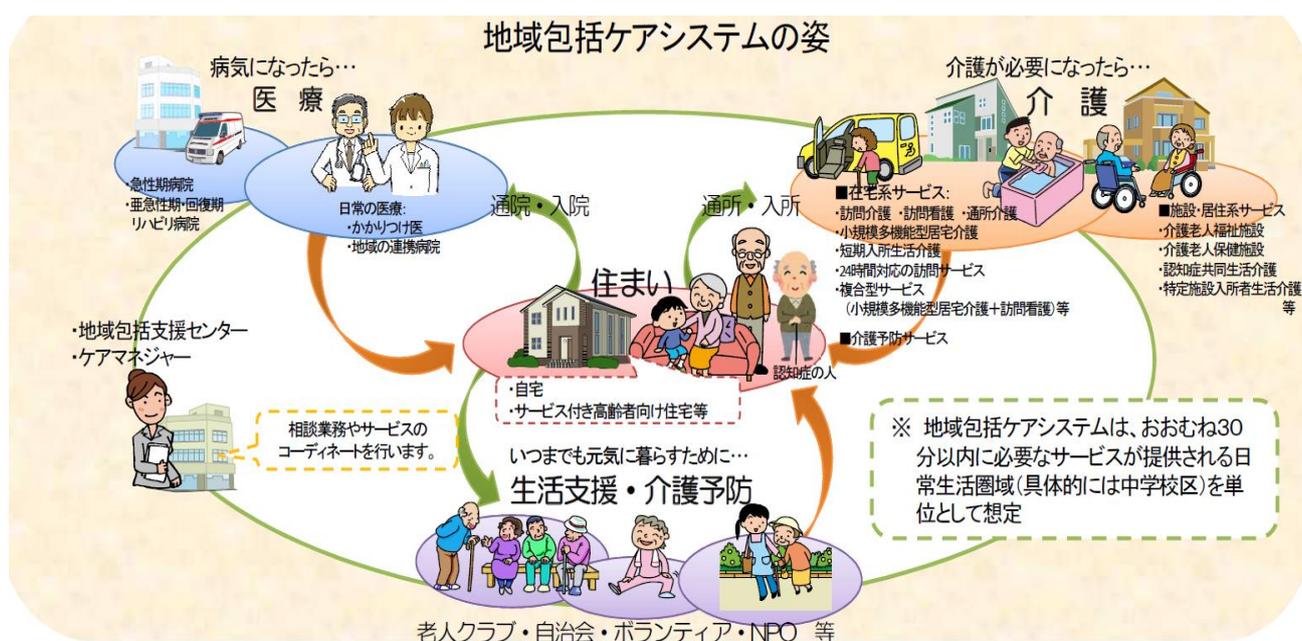
今年 2025 年は、団塊の世代が 75 歳以上を迎える年となります。

そのような中、高齢者が介護を必要とする状況になった場合でも、住み慣れた地域で自分らしい生活をできるだけ最後まで続けられるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体となって提供される「地域包括ケアシステム」の構築が急務となっています。

地域包括ケアシステムは、地域の実情をよく把握した上で、「自助」（自分でできる介護予防など）、「互助」（家族や地域での支え合い）、「共助」（介護・医療保険サービス）、「公助」（行政の生活支援サービス）の四つの柱を基盤とし、関係者等が密接に連携しつつ、そのシステム（仕組み）を作り上げることが大切です。

本書では、高齢者が直面する主な課題を、実際の事例として紹介するとともに、地域で最も身近な公民館をはじめ、自治会や民生委員等とも連携し、地域の関係者が協力して解決を目指す取り組みについて触れています。

地域ごとに課題は異なりますが、皆さんの地域での取り組みに少しでも参考になれば幸いです。「地域包括ケアシステム」の実現に向けて、共に力を合わせ、協働の輪を広げていきましょう。



※ 引用：厚生労働省

も く じ

はじめに	・・・	2
1 主な相談先	・・・	4
2 事例集		
（1）ゴミ出し	・・・	5
（2）ゴミ出し	・・・	6
（3）買い物	・・・	7
（4）草むしり	・・・	8
（5）話し相手	・・・	9
（6）活動の場	・・・	10
（7）活動の場	・・・	11
（8）安否確認	・・・	12
（9）見守り	・・・	13
（10）緊急的な対応	・・・	14
New （11）公民館でいきいき百歳体操をスタート	・・・	15
New （12）茶話会がいきいき百歳体操に進化！	・・・	16
New （13）団地内の集会所でもいきいき百歳体操がスタート！	・・・	17
New （14）山間部への移動スーパー誘致	・・・	18
New （15）生き活講座(終活)の開催	・・・	19

1 主な相談先

相談窓口 (※1)	連絡先
〇〇公民館 (地域の公民館を記載)	****_**_****



<公的機関>

番号	相談先	連絡先
1	西条市地域包括支援センター 西条北部	0897-55-5359
2	西条市地域包括支援センター 西条南部	0897-55-0630
3	西条市地域包括支援センター 西条西部・小松	0898-52-8221
4	西条市地域包括支援センター 東予	0898-66-5520
5	西条市地域包括支援センター 丹原	0898-35-3427
6	西条市役所 介護保険課 包括支援係・介護予防係	0897-52-1412
7	西条市役所 地域福祉課 長寿・いきがい対策係	0897-52-1292
8	西条市役所 地域福祉課 障がい支援係	0897-52-1214
9	西条市役所 衛生課 衛生係	0897-52-1338
10	西条市役所 暮らし支援課 生活相談係	0897-52-1243
11	西条市社会福祉協議会 地域福祉課	0898-64-2600



<地域の資源>

番号	相談先 (※2)	連絡先
1	民生児童委員	****_**_****
2	自治会	****_**_****
3	老人クラブ	****_**_****
4	婦人会	****_**_****
5	公民館・集会所で活動する自主グループ	****_**_****

※1 本書は、住民に最も身近な公民館を窓口とした取り組みを中心に掲載するため、最初の相談窓口を公民館としています。

※2 各地域の実情に合った相談先を記載してください。

2 事例集

No. 1	ゴミ出し
<p><困りごと> 今まで14年間、自治会が管理するゴミ捨て場にゴミを出していたが、自治会に入っていないことを理由に断られた。ゴミ出しができなくて困った。</p>	
<p><解決に向けた流れ></p> <div data-bbox="687 557 948 651" style="border: 1px solid black; background-color: #FFD700; padding: 5px; text-align: center;">事例発生</div> <div data-bbox="687 728 1042 875" style="border: 1px solid black; background-color: #90EE90; padding: 5px; text-align: center;">◆相談窓口 ○ 公民館</div> <div data-bbox="620 943 1377 1256" style="border: 1px solid black; background-color: #90EE90; padding: 5px;">◆連携・情報共有先 ○ 地域包括支援センター（第2層コーディネーター） ○ 介護保険課（第1層コーディネーター） ○ 自治会 ○ 西条市役所 衛生課</div> <div data-bbox="746 1267 1422 1458" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>第1層コーディネーター 訪問の際には、本人のニーズや生活状況のほか、親族などの協力者の有無をよく聞き取ること。（全てのケースに共通）</p></div> <div data-bbox="229 1402 1393 2002" style="border: 1px solid black; background-color: #90EE90; padding: 10px;"><p>◆実行内容</p><ol style="list-style-type: none">① 第2層コーディネーターが個別訪問し、ご本人に状況を聞き取り。② 第2層コーディネーターより西条市役所衛生課にゴミ収集について相談。③ 自治会に確認すると、実は不燃ごみと可燃ごみの集積所が別であり、注意を受けたのは不燃物の方のみで、可燃物は問題なしであったことが判明。④ 地域包括支援センターよりご本人に上記の内容を伝えた。缶や瓶など不燃物になるものはなるべく購入しないよう努めることとした。⑤ ご本人に対し、一定の安心感・信頼感を得ることができた。⑥ 地域包括支援センターが今後3か月に1回程度家庭訪問し、生活の状況など総合的に見守ることとした。</div> <div data-bbox="229 651 603 1223" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>公民館 これを機会に自治会に加入しては。 本人 収入面が厳しくて自治会費を支払うことができない。 公民館 ご自身でクリーンセンターに持ち込む方法もある。 本人 そこまで行く手立てがない。</p></div> <div data-bbox="1086 584 1422 882" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><p>本人 今まではゴミ捨てができていたのに、急に捨てられなくなって困った…。</p></div>	

<困りごと>

近所にゴミ出しの曜日を間違えている高齢者がいるようだ。

また、一人で歩いてゴミを持っていく様子を見ると危なっかしくて転倒が心配だ。

<解決に向けた流れ>

事例発生



◆相談窓口

- 公民館



◆連携・情報共有先

- 地域包括支援センター（第2層コーディネーター）
- 近隣住民（声掛け、見守り協力）
- 地域福祉課（シルバーカー助成）
- 民間事業者（有料サービス）



◆実行内容

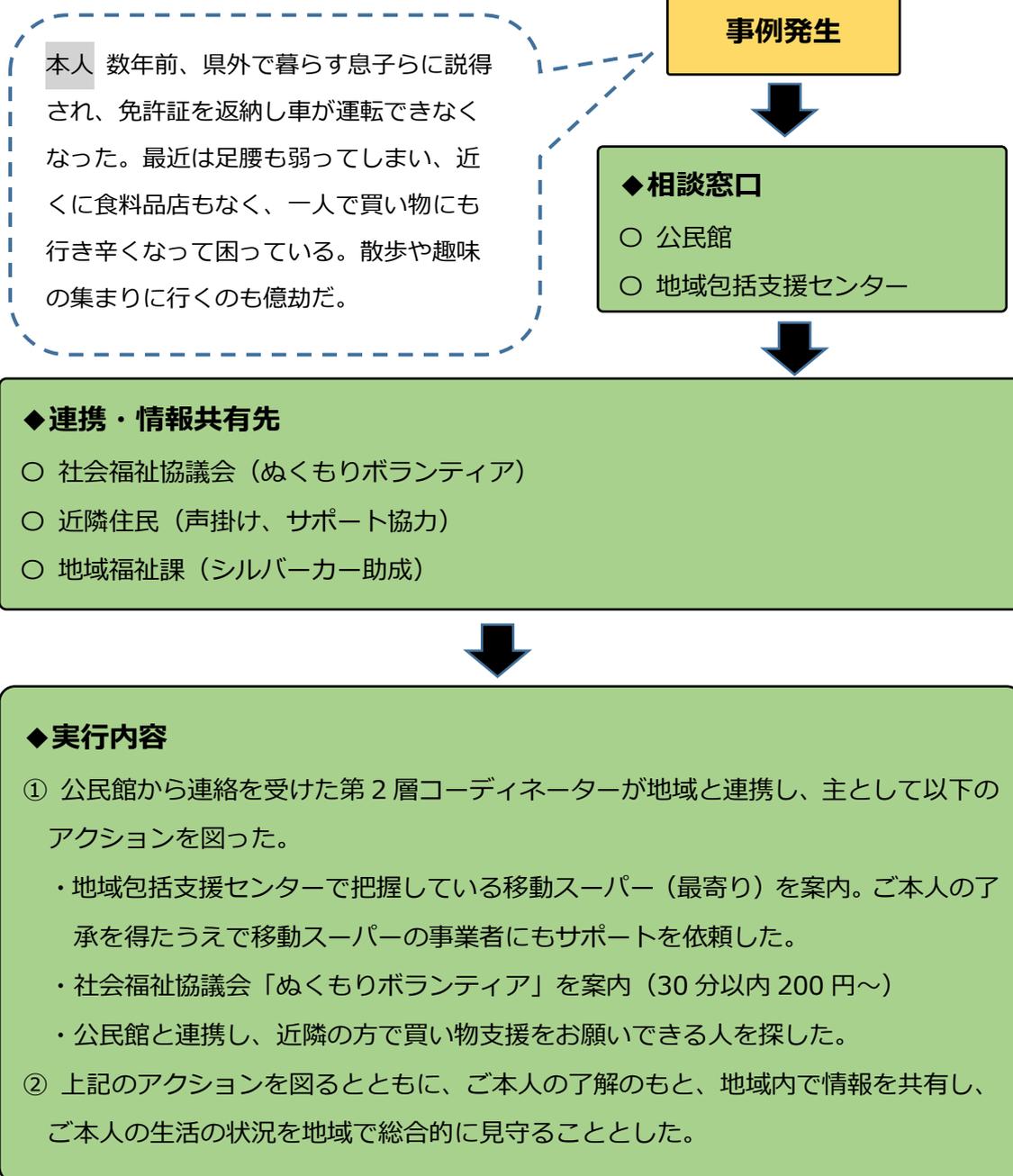
- ① 第2層コーディネーターが公民館に相談。協力してくれそうな近隣住民宅を訪問しゴミ出しの日になるべく声かけしてもらえようお願いした。
- ② 第2層コーディネーターがご本人宅を訪問。シルバーカー助成制度（地域福祉課）を案内し、地域包括支援センターが当該申請を代行することとした。
- ③ 第2層コーディネーターが民間事業者にゴミ出しなどの有料サービスについて照会。ご本人にも内容を説明し、今後の利用を検討してもらうこととした。
- ④ 近隣住民らと情報を共有し、可能な範囲で見守りをお願いするとともに、ご本人の生活の状況を地域包括支援センターと一緒に見守ることとした。

近隣住民 どうやらゴミ出しの日を間違えて出している高齢者の方がおり、注意するも改善が見られない。
また、ゴミ出しの様子を見ると危なっかしい。転倒の危険性もあり心配だ。

<困りごと>

1人暮らしの高齢者ご本人から相談あり。車がなく、近くにスーパーもない。足腰が弱くなってしまい、1人で買い物に行き辛くなった。

<解決に向けた流れ>

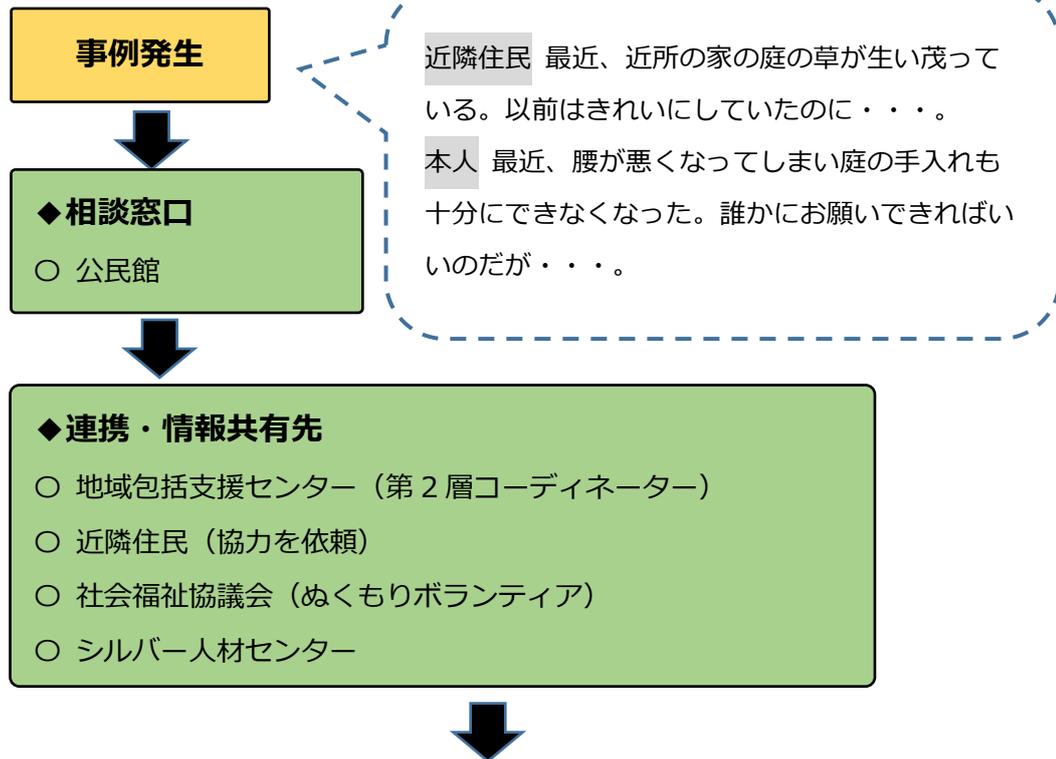


<困りごと>

近所の方から一人暮らしの高齢者宅の草が生い茂っていると連絡あり。

高齢者ご本人も相談先が分からずに困っている。

<解決に向けた流れ>



◆実行内容

- ① 公民館から連絡を受けた第2層コーディネーターが個別訪問し状況を聞き取り。
- ② 公民館からの連絡を受けた第2層コーディネーターが地域と連携し、主として以下の取り組みを図った。
 - ・公民館、自治会及び民生委員と連携し、地域の方で草取りや庭の手入れをお手伝いしてもらえそうな人、剪定が得意な人を探した。
 - ・社会福祉協議会「ぬくもりボランティア」を案内（30分以内 200円～）
 - ・シルバー人材センターや自費サービスを紹介した。
 - ・地域福祉課に軽度生活援助について相談した。
- ③ ご近所でも情報を共有し、ご本人の生活の状況を地域で総合的に見守ることとした。

<困りごと>

夫より要介護認定を受けている妻について相談あり。普段は夫婦でグラウンドゴルフに参加していたが、妻は夫以外と話す機会が少ない。近所に友人もおらず、妻の話し相手が欲しい。

<解決に向けた流れ>

事例発生

夫 妻は若い頃から多趣味だった反面、他人とは馴染みの関係が築けていないとなかなか心を開かない性格。介護認定も受けている（要介護2）が、今のところ私が面倒をみれるため、公的なサービスは使うつもりはない。

◆相談窓口

- 公民館

◆連携・情報共有先

- 地域包括支援センター（第2層コーディネーター）
- 近隣住民（声掛け、協力）
- 西条市社会福祉協議会・西条市ボランティアセンター（傾聴ボランティア）
- 公民館で活動する各種サークル・団体

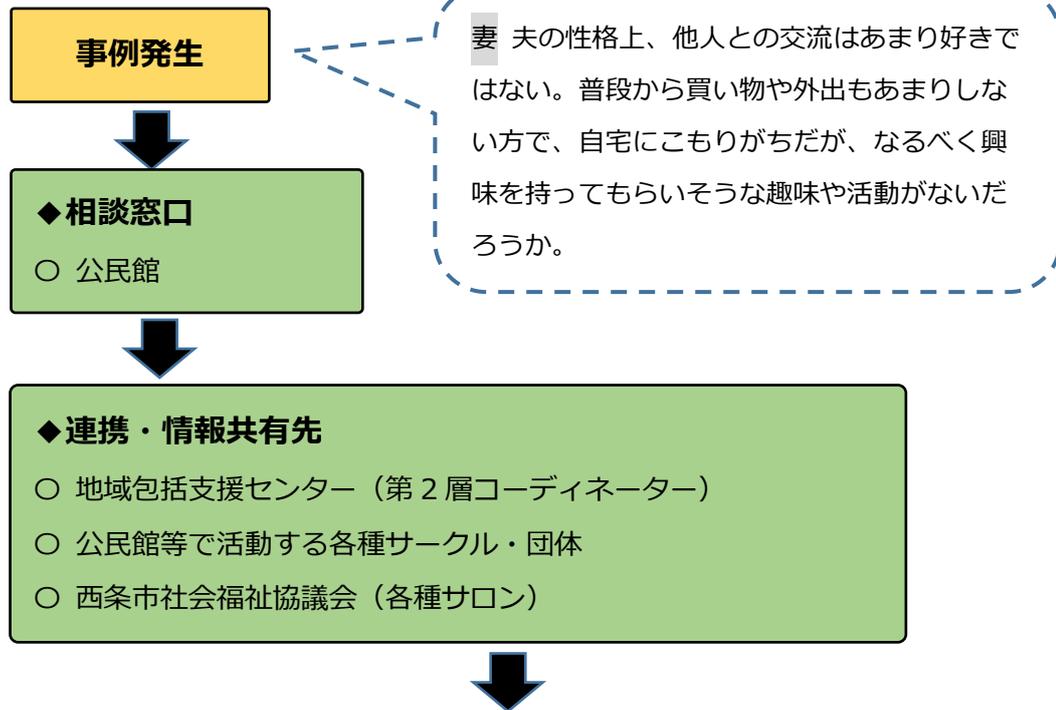
◆実行内容

- ① 公民館から連絡を受けた第2層コーディネーターが自宅訪問し状況を聞き取り。
- ② 第2層コーディネーターが主となり、以下のサービスを紹介した。
 - ・西条市ボランティアセンター（傾聴ボランティア）を紹介した。
 - ・興味がある分野を伺いつつ、地域の集いの場やサークルを紹介した。
 - ・地域包括支援センターが主催するいきいき百歳体操、高齢者カフェを紹介した。
- ③ 公民館から、公民館が主催する活動や各種サークルを、公民館だよりなどを用いて説明した。残念ながら直ぐには解消に繋がらなかったが、公民館だよりなどで継続して周知することとした。
- ④ 上記の取り組みを図るとともに、地域包括支援センター内で情報を共有し、ご本人の生活の状況を総合的に見守ることとした。

<困りごと>

夫婦でいきいき百歳体操に参加していたが、夫の体力が低下したため、参加が難しくなった。妻は継続して、いきいき百歳体操に参加予定だが、夫が参加できる活動を紹介してほしい。

<解決に向けた流れ>



◆実行内容

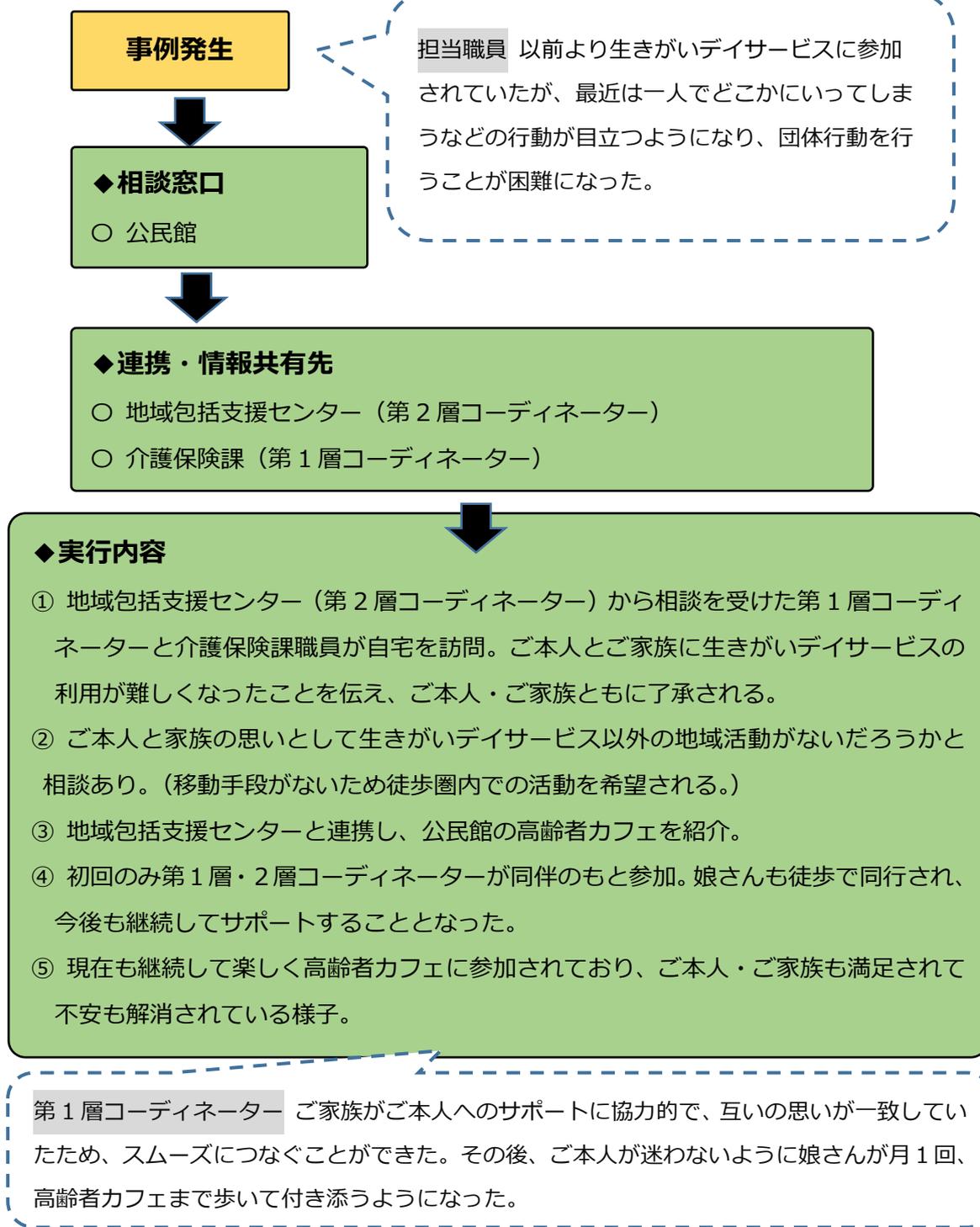
- ① 公民館から連絡を受けた第2層コーディネーターが自宅訪問し状況を聞き取り。
- ② 公民館と連携し、第2層コーディネーターが公民館で活動する各種サークル・団体に出向き、活動内容をヒアリング。その後、興味のあるサークルを選定し、夫婦と顔合わせし、マッチングをおこなった。
- ③ 近隣の公民館や集会所等で体操等を行っている自主グループを紹介した。
- ④ 西条市社会福祉協議会（各種サロン）を紹介した。
- ⑤ 地域包括支援センターで情報を共有し、ご本人の生活の状況を総合的に見守ることとした。

第1層コーディネーター 妻が車で送迎可能であり、積極的であったため、活動範囲の候補を地区外にまで広げることができた。なるべく多くの活動を把握したうえでご本人に合った趣味を発見してあげたい。

<困りごと>

生きがいデイサービス（社会福祉協議会に市が委託して実施中）の利用をしていたが、ご本人の健康状態からだんだんと参加が難しくなった。

<解決に向けた流れ>



<困りごと>

公民館に息子さんより電話あり。離れて暮らす母と今日の朝から連絡が取れない。
何度も携帯に電話するのだが電話に出ないので心配。誰か様子を見に行ってほしいのだが。

<解決に向けた流れ>

公民館長 息子さんとは同級生だったため、何とかならないかと電話で直接相談を受けた。早速自宅を訪問して、お母さんの無事を確認することができた。どうやら携帯の充電が切れていたようで、息子さんにも無事を連絡。お母さんにも携帯電話を充電して早速に電話するように伝える。今後も同じような事が発生すると思われるが、どう対処したらいいだろう。

事例発生

◆相談窓口

- 公民館

◆連携・情報共有先

- 地域包括支援センター
(第2層コーディネーター)
- 介護保険課 (第1層コーディネーター)
- 担当ケアマネージャー
- 民生委員
- 近隣住民 (見守り協力)

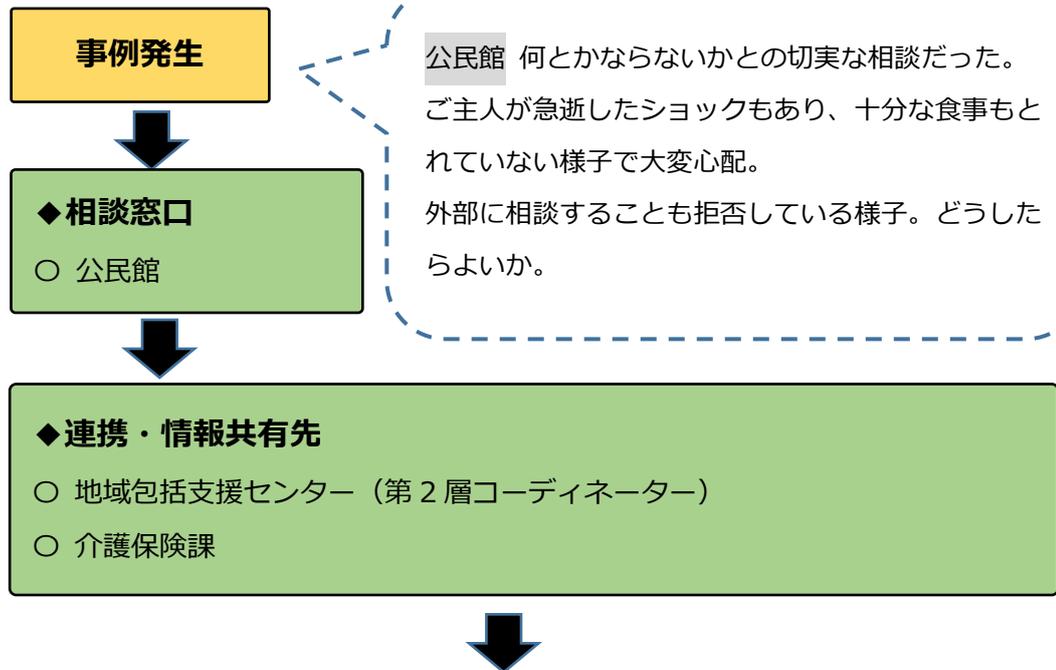
◆実行内容

- ① 今回の事案の対応後、公民館から第1層コーディネーターと地域包括支援センターに情報提供あり。
- ② 担当ケアマネージャーにより近所の協力者を把握。地域での見守り体制について、息子さんとともに協力を依頼する。
- ③ 第2層コーディネーター、ケアマネージャーより、息子さんに高齢者見守りサービス(有料)を紹介。導入を検討中。
- ④ 第2層コーディネーターが民生委員やケアマネージャーにも連絡し、情報を共有。息子さんの連絡先も伝え、普段の見守り体制を整えた。
- ⑤ ご本人や息子さんに一定の安心感を与えることができた。

<困りごと>

本人の知人という女性から公民館に連絡あり。高齢夫婦でなんとか生活していたが、夫が急逝。妻本人も最近転倒しケガをしているが受診を拒んでいるようで大変心配だ。

<解決に向けた流れ>



公民館 何とかならないかとの切実な相談だった。ご主人が急逝したショックもあり、十分な食事もとれていない様子で大変心配。外部に相談することも拒否している様子。どうしたらよいか。

◆実行内容

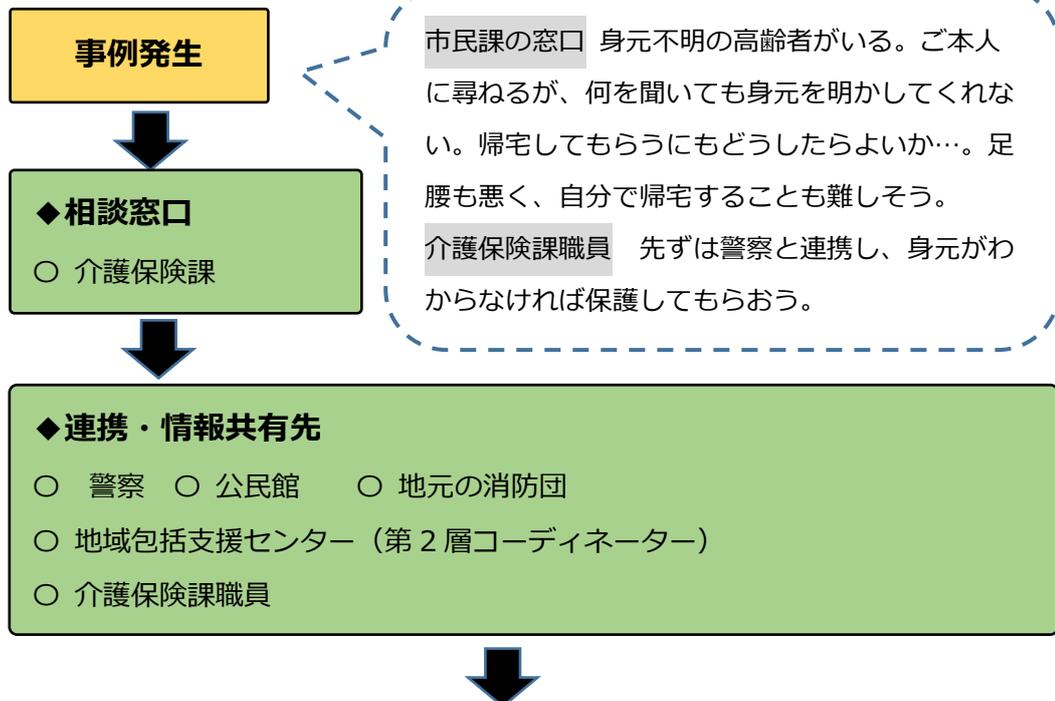
- ① 公民館から介護保険課に相談あり。
- ② ご本人が市に相談することを拒んでいるため、まず知人、ご本人の妹、義妹、姪との話し合いの場を持ち、地域包括支援センターも介入して支援できるよう説得を行った。
- ③ 知人を通じてご本人を説得。地域包括支援センターが支援することの了解を得る。
- ④ 介護保険課と地域包括支援センターとが自宅訪問。状態を把握したうえで病院受診に繋がった。（義妹の協力も得て受診→入院加療中）
- ⑤ 今後は地域包括支援センターを中心に、公民館や地域でご本人の生活の状況を総合的に見守ることとした。

介護保険課 姉妹間の関係が悪く、病院の受診に際し、なかなか協力を得られなかったが、親族間で粘り強く話し合いを持つことで何とか協力を得られた。

<困りごと>

本庁に身元不明の高齢者がいる。足腰も悪いようで、しっかりと歩くことが困難な様子。

<解決に向けた流れ>



市民課の窓口 身元不明の高齢者がいる。ご本人に尋ねるが、何を聞いても身元を明かしてくれない。帰宅してもらうにもどうしたらよいか…。足腰も悪く、自分で帰宅することも難しそう。

介護保険課職員 まずは警察と連携し、身元がわからなければ保護してもらおう。

◆実行内容

- ① 介護保険課が警察に連絡。調査後、ご本人の身元が判明したためタクシーを手配して帰宅。（山間部で一人暮らしの状況）
- ② 翌日の朝、地域包括支援センターと介護保険課とが自宅を訪問。高齢であり昨日に引き続き足腰を痛がっているため、早急な対応が必要だと判断。しかしご本人は対応を拒否。
- ③ 公民館に連絡し、ご本人の親族を早急に探してもらうよう依頼。最終的には地元の消防団とも連携し、市外に住む兄の連絡先を把握することができた。
- ④ 兄に電話で連絡し状況を説明。了解を得て病院を受診。腰骨の骨折が判明したため、急遽入院することとなった。
- ⑤ 退院後は兄とも連携し、地域包括支援センターでご本人の生活の状況を総合的に見守ることとした。（介護認定をはじめとした公的サービスについても利用を検討。）

介護保険課職員 1人暮らしで他人との接触を極端に拒む性格の方だった。親族を見つけるまでに苦労したが、公民館や消防団の協力を得て支援に繋げることができた。（本件は公民館が窓口ではなく、市から逆に公民館・消防団に協力を依頼したケース）

<困りごと>

私たちの地域でも介護予防に取り組みたいけど、何をしたらいいのかわからない。

<解決に向けた流れ>

事例発生

◆相談窓口

- 地域包括支援センター
(第2層コーディネーター)

◆連携・情報共有先

- 公民館
- スポーツ推進委員
- アシストメイト
- 介護保険課

住民 私たちの地域でも高齢者を集めて介護予防活動
をしたい。体操教室を作ることができれば。

でも、自分たちだけでは何もわからないし、どのよう
に周知したら参加者が集まるのだろうか？

地域包括支援センター職員 公民館にも連絡し、力に
なってくれる方々を探してみましょう。物品は介護保
険課にも相談してみましょう。

◆実行内容

- ① 住民から相談を受けた地域包括支援センターと介護保険課職員が公民館と相談。公民館に相談したところ、体操教室を開催することとして理解を得た。会場の確保、テレビやDVDデッキの貸出、地区内での周知等の協力を得た。また、地域住民の中で、スポーツ推進委員やアシストメイト（ボランティア）とも繋がることできた。
- ② いきいき百歳体操前後で使用する血圧計・おもりの貸出については、介護保険課と相談し、貸出を受けることとした。
- ③ メンバーは働いている人が多いため、続けられるかどうか心配していたが、自分たちが発端となった取り組みに、地域包括支援センター、スポーツ推進委員やアシストメイトが参加してくれたことで、助け合いながら持続可能な形を見つけることができた。
- ④ この取り組みによって関係者同士が親しくなり、例えば「公民館の活動グループ代表者会議」などにスポーツ推進委員が参加し、軽スポーツ等の取り組みを紹介していく予定。

介護保険課職員 住民自らが発端となって活動がスタートしたが、公民館や地域住民らの協力をいただいたことで、地域内での輪が広がった。

この取り組みをきっかけに、関係者同士が親しくなり、公民館と地域包括支援センターとの距離もぐっと縮まり、気になる高齢者の情報共有がスムーズにできるようになった。

<困りごと>

公民館まで遠い…。介護予防の活動、近所の集会所で開催したいけど…。

<解決に向けた流れ>

事例発生

◆相談窓口

- 地域包括支援センター
(第2層コーディネーター)

◆連携・情報共有先

- 自治会 ○ 健康づくり推進員(OB) ○ 介護保険課

住民 近くの集会所で仲良しグループで茶話会をしているが、せっかくならこのグループで体操や介護予防教室をやってみたい。公民館まで遠いし…。

地域包括支援センター職員 どんな活動をしているのか、まずは参加させてください。皆さんのニーズを伺ってから、皆さんに合ったメニューを紹介しましょう。

◆実行内容

- ① 住民から相談を受けた地域包括支援センターが、集会所の茶話会の輪の中に入り、ニーズの聞き取りを行った。その結果、主として“いきいき百歳体操”を希望。
- ② 集会所には物品がなかったため、介護保険課にも相談。パイプ椅子、おもり、血圧計を借用。自治会にも相談したところ、テレビを買ってくれたので、自分たちでDVDを使った体操もできる環境が整った。
- ④ 住民グループのお世話人が元健康づくり推進員だったこともあり、市や地域包括支援センターの活動もよく理解しており、スムーズにスタートすることができた。
- ⑤ 体操教室は月2回程度の活動とし、近隣の人らにも口コミや地域包括支援センターの周知などで呼びかけ、近隣の高齢者の外出のきっかけとすることができた。
- ⑥ 公民館まで行くのが難しい高齢者の集いの場とすることができた。

介護保険課職員 本ケースは、地域包括支援センター(第2層コーディネーター)が地域住民の声をキャッチし、新たな活動が展開できたケース。地域のお世話人が健康づくり推進員だったこともあり、その知見や関係性を生かすことができた。地域の公民館は、高齢者にとっては遠い場合もある。参加者のニーズをくみ取り、少しのお手伝いをすることで、既存の茶話会の場が、よりパワーアップした集いの場となった。

<困りごと>

団地内の世帯のほとんどが高齢者。何かしないといけないと思っているが…。

<解決に向けた流れ>

事例発生

◆相談窓口

- 地域包括支援センター

◆連携・情報共有先

- 自治会
- 公民館
- 介護保険課

◆実行内容

- ① 第1層コーディネーターが集会所に訪問し、お話を伺う。団地内の住民のほとんどが高齢者で、介護予防にも興味あり。社協サロンはあるが、マンネリ化しているので何とか盛り上げたい。いきいき百歳体操にも興味があるとのことで、後日地域包括支援センターと再訪問することにした。
- ② 地域包括支援センターと一緒に集会所を訪問。市や地域包括支援センターが行っている介護予防活動について説明し、いきいき百歳体操の体験会を実施。好評を得た。
- ③ 地域包括支援センターから自治会長にもお願いし、いきいき百歳体操のパンフを配布してもらう。
- ④ 並行して公民館にも相談。公民館とのコラボイベントとして開催するなどの協力を得て、百歳体操のほか、公民館職員らによる出張型の防災講座も開催。
- ④ 体操教室をベースとし、定期的に開催することになった。

住民 この団地は団塊の世代が集まっているので、世帯のほとんどが高齢者世帯になってしまった。社協のサロンでの集まりはあるけど、介護予防？何かしないといけないと思うけど、何をしたら…。

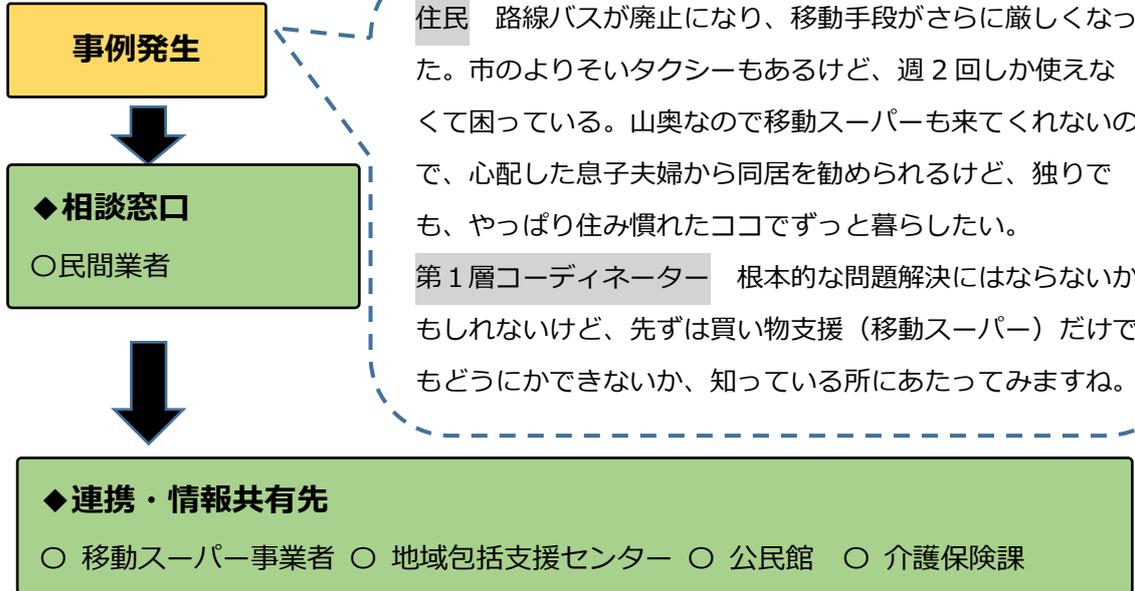
第1層 SC 試しにいきいき百歳体操の体験会をしてみませんか。地域包括支援センター(第2層コーディネーター)もお手伝いしますよ。

介護保険課職員 地域住民からの相談を受け、市の介護予防事業についてあまりご存じではない住民へのアプローチが奏功したケース。自治会長も周知等に協力いただいているほか、公民館も積極的に関与。公民館との共催事業も含み、今後の広がり期待したい。他にも似たようなグループはありそうなので積極的にアプローチしていきたい。

<困りごと>

路線バスが廃止となり、まちに出るのが超困難。

<解決に向けた流れ>



住民 路線バスが廃止になり、移動手段がさらに厳しくなった。市のよりそいタクシーもあるけど、週2回しか使えなくて困っている。山奥なので移動スーパーも来てくれないので、心配した息子夫婦から同居を勧められるけど、独りでも、やっぱり住み慣れたココでずっと暮らしたい。

第1層コーディネーター 根本的な問題解決にはならないかもしれないけど、まずは買い物支援（移動スーパー）だけでもどうにかできないか、知っている所にあたってみますね。

◆実行内容

- ① 公民館からも遠く離れた地域で、集会所での高齢者の集まりもなかったが、要望を受けた地域包括支援センターと住民らが連携し、集会所で高齢者カフェを開設したばかり。
- ② 体操教室の参加者から、移動手段の問題の訴えあり。地域包括支援センターから第1層コーディネーターにも繋ぎ、検討を始める。ただし、移動手段自体を確保するハードルは高いため、まずは移動スーパーの招致を検討。複数の民間業者と交渉するも、予想通りお断りされた。粘り強く探していたところ、事情を理解いただいた1者の協力が得られる。
- ③ 公民館も移動スーパーと連絡を取り合い、地区道路の通行状況を知らせ合うようになったほか、地区内の住民への周知などの協力を行っている。
- ④ 住民から「非常に助かっている、来るのが待ち遠しい。」と好評。移動販売車を待つ集まりの輪自体が、集いの場になっている。

介護保険課職員 山間部に限らず、今後は市街地でも移動販売車が必要とされるケースが出てくることも考えられ、その際にすぐに声を掛けられる業者との関係維持に努めたい。地域の声を敏感に拾い上げることが大切だと感じた事例であった。

<困りごと>

終活って必要？自分にはまだ必要ないと思っていたけど…。

<解決に向けた流れ>

事例発生



◆相談窓口

- 地域包括支援センター
- 公民館



◆連携・情報共有先

- 終活アドバイザー
- 介護保険課



◆実行内容

- ① 住民から話を受けた第1層コーディネーターが、知り合いの終活アドバイザーに相談。エンディングノートの基本的な書き方など、終活に関するお話をさせていただくことで快諾をいただく。
- ② まずは1か所での開催を目指し、地域包括支援センターや公民館に相談。公民館でも同様の話題がよく挙がるとのことで、公民館との共催事業として開催することとなった。
- ③ 講座を開催したところ大変好評であり、第2層コーディネーター同士、公民館同士でも口コミで話が広がり、多数の依頼あり。既存の教室での開催のほか、公民館の各種教室でも共催事業と位置付けて開催。それぞれの地域の公民館だよりも掲載してもらい周知を図る。

住民 終活、自分にはまだ関係ないと思っていたけど、ちょっと気になる。もしもの時のため、備えをしておきたいと思うものの、どこにも相談するところが無く何かから手を付けていいのかわからない。

第1層コーディネーター 実は私、僧侶もやっています。終活、最近になって話題になることが多くなってきましたね。外部講師にもその関係の知り合いがいるので、一緒に何かできないか相談してみましよう。

介護保険課職員 一つの地域の声が他の地域にも広がり、公民館との共催事業にも繋がった事例。外部講師の力も借りつつ、既存の集いの場や公民館の各種教室のマンネリ化の解消を図るメニューとしていきたい。「終活」というネーミングに抵抗を感じる方もいることを考慮し、人生の後半を生き生きと生きるための「生き活」とタイトルを変えて開催している。